

令和5年度 いのちの授業 事例集（中学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

88

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中複合	総合的な学習の時間	在り方生き方授業「人間愛・思いやり」	余命4ヶ月と告げられた6歳の少女と家族の出来事を授業の題材として活用しながら、限られた時間の生き方・命の尊さや、家族や他人への愛情・愛のある行動について考え、感謝の気持ちや人間愛を育むことを大切に授業を実践した。授業を通して、普段感謝の気持ちを伝える機会が少なかった家族や仲間に対して感謝の気持ちをまとめることができた。また、命の尊さや自分自身の生き方について見直ししながら今後の生活に活かしていこうとする様子が見られた。	資料 「天国からの手紙」 「エレナ・デッセリッチさんと家族」 全校生徒へ実施
2 川崎市	中複合	総合的な学習の時間	「いのちの大切さを学ぶ教室」	NPO法人神奈川被害者支援センター、幸警察署の協力のもとに実際の事件を題材にしたアニメーションDVDを上映し、被害者や残された遺族の心情などを通じて「いじめ」や「犯罪」について考える講演を全校生徒に実施した。講演を通して、「命の大切さ」や犯罪に遭われた方々やその御家族の置かれた状況や気持ちについて考えることで、自らが加害者になってはいけないという規範意識を向上させることができた。講演後の振り返りシートからも、自分や他人の命を大切にしようとする気持ちや今後の生活に活かしていこうとする考えを見取ることができた。	講師 NPO法人神奈川被害者支援センター：スクールアドバイザー 全校生徒へ実施
3 川崎市	中1	総合的な学習の時間	防災教育	総合的な学習の時間で、地域の「防災」について学習した。いつどのような災害が起こるか分からない中、私たちが身を守るために普段からできることや、いざという時に利用できる施設・設備等を調べ学習する。 生徒たちは、災害に備えてどのようなことができるか、考えることができた。また、立川防災館へ出向き、実際の災害を疑似体験することができた。	立川防災館
4 川崎市	中2	総合的な学習の時間	大切にしよう！わたしのからだ・わたしのこころ	思春期真っ只中で、心と体の変化が激しい時期にある中学2年生。男女の体の違いを知ること、性意識の変化に伴う行動選択を考えることから、性と生は同時進行であることを学ぶ授業。他人と比べて不安にならず、自分自身を大切にしようと思ったり、違いを互いに認め合って生きていきたいといった感想があがった。	講師は、元中原区保健福祉センター職員で、現在は、助産院を開業されている助産師
5 川崎市	中1	総合的な学習の時間	「私が避難所運営でできること」	災害発生時の避難所生活の中で、地域の多様な他者と関わり合いながら、地域を守ることを考えることによって、社会参の意識を高めるとともに、いのちの大切さを再認識させた。川崎市宮前区の危機管理室の職員に依頼し、避難所の運営等の講演を聴き、現実的な避難や行動について、真剣に考え、言葉にすることができた。	講師： 川崎市宮前区危機管理室職員

6	川崎市	中2	総合的な学習の時間	いのちの授業 「いのちの教育 ふれあい体験事業」	体育館で事業者の方から、生徒たちにも乳幼児のときがあり、多くのことがありながらも、ここまで愛情をもってここまで育ててきてもらっていることを話していただいた。話を聞いている生徒たちは頷きながら聞いている様子だった。妊婦体験や抱っこ実習、手遊び講習、ベビーカー体験を実習し、生徒たちの中から「懐かしい」「今自分の弟にやっている」などの声も聞こえた。講演後に、アンケートと家族への手紙を書いた。書いている中で、話すことができない赤ん坊に対して、どうやって気持ちを汲み取ったり、察したりするのだろう、母さんはすごいという考えに至った生徒もいた。また、いのちの尊さや大切さを実感することができた。	講師はNPO法人のまま とんきつずさん 実際に体験すること で、イメージを持ちやすかった。
7	川崎市	中1	総合的な学習の時間	いじめ防止標語	川崎市子どもの権利に関する条例「人間として大切な子供の権利」に関連して授業を行った。「安心して過ごせるクラス・学年に！」を目標に、各自でいじめ防止標語を考え、全員の標語を掲示した。班で意見交換し、自分たちで選んだ代表の標語をクラスで共有し、意識して生活するよう指導した。	第17回「いじめ防止 標語コンテスト」
8	川崎市	中2	総合的な学習の時間	人権移動教室 平和学習	本校では、総合的な学習の時間において、「平和学習」を柱にして実施している。生徒には平和学習を広く捉え、人権尊重教育、生命の尊さなどの理解が必要であると感じている。本移動教室では、横浜国際人権センターの方を講師に招き、国際的な人権問題及び国境なき医師団などの説明や映像を通して、平和学習に関わる人権尊重教育を学ぶことができた。	国連NGO 横浜国際人 権センター会長
9	川崎市	中複合	総合的な学習の時間	多様な性	3年間を通し、全校で多様な性についての学習に取り組んだ。(①多様な性の考え方や、当事者の動画②当事者による講演会③人との関り)生徒の感想文を読むと、多様な性について大人よりも、当たり前のこととして捉え、考え、接していると感じた。差別や偏見のない社会、命について考えることができた。	多様な性についての 動画、ワークシート
10	川崎市	中複合	総合的な学習の時間	デートDV予防啓 発プロジェクト	中学生にとってみぢかな問題である「デートDV(恋人間の暴力)」をテーマに「暴力とは何か？」を考える。一人ひとりがとても「大切な人である」こと「自分らしく生きていっていい」ということを知ってもらう機会となった。また、公演を受け、各クラスでデートDVについての人権標語、人権ポスターを作成し、各クラスの代表者による人権朝会を実施した。	講師：認定NPO法人エン パワメント神奈川
11	川崎市	中3	総合的な学習の時間	平和学習 【私の平和宣言】	「平和」をより良く生きることととらえ、平和な社会の実現に向けて大切なことを考え話し合う活動をおこなった。その後、自分達が今後どのように生きていくかを平和宣言にまとめた。その中で、「互いを尊重すること」、「あたり前の日常に感謝すること」「自分の命を大切にすること」など、多くの意見が出された。一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感でき、だから自分も友達も大切にしていかなければいけないということを考える機会となった。	平和宣言を書くまでに 活用した資料 広島平和記念資料館 (平和記念公園) 歌「空は今」

12	相模原市	中複合	総合的な学習の時間	人権習慣 「人権とな何か」	<p>本校では、5月の4週目を人権週間として命の大切さの授業を行っている。（全4回）</p> <p>1回目：「人権とは」に関するVTR視聴 2回目：SNS等でのいじめ、モラルについて 3回目：「自他の気持ちの理解」 4回目：相互理解を深める学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、いじめを傍観しない基礎づくりとして「いじめをしない・させない・見逃さない」をテーマに実践力を鍛える。 ・総合的な学習の時間の授業では、いじめを生まない人間関係の構築をめざし、SNS等からいじめに発展する事を学ぶ。また、学級で相互理解を深める活動をおこなっている。 ・この人権週間で学んだことを人権作文として書かせ、生徒に考えさせる。 <p>このような取り組みを通して「いじめは人間として絶対に許されないこと」という意識の育成を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメ「めぐみ」の視聴を通して、「日本国憲法」が定める自由権及び「児童の権利に関する条約」に示された権利や自由権に触れる。 ・SNS動画関連は文部科学省から引用。
13	相模原市	中3	総合的な学習の時間	性教育	<p>性に関する基本的な知識を講演していただきました。保健体育科でも扱う内容ですが、外部講師の方に専門知識をよりかみ砕いて、事例をもとに説明をしていただきました。望まない妊娠の防止から、性感染症の恐ろしさなど、自分の命を守るためにも必要な知識をわかりやすく伝達できました。</p>	NPO法人ピルコン 性の健康/リレーションシップ講座
14	相模原市	中1	総合的な学習の時間	福祉教育 「車椅子バスケットボール体験講演会」	<p>車椅子バスケットボールの選手の方々を招いて、講演会と体験会を行った。講演会では車椅子バスケットボールのルールや競技用と生活用の車椅子の違いなどを教えていただいた他、質疑応答の時間では競技のこと以外にも日常生活のことなど幅広く教えていただき、子どもたちも興味津々で話を聞いていた。体験会では、生徒たちは車椅子で行うバスケットボールを苦戦しつつも楽しんでおり、障がい者スポーツに対するポジティブな理解を深めることができた。</p>	講師は、車椅子バスケットボールのプロ選手として活躍する方々。
15	相模原市	中複合	総合的な学習の時間	思春期出前講座 「命のはなし」	<p>事前アンケートを参考に、保健師の仕事、命の始まり、その時の母親の気持ち、そして思春期の不安定さについて話を聞いた。子どもから大人への移行期で体の変化に戸惑い、心が揺れ動くのはみんな同じ。泣きたいことがあってもいい、一人で抱えないで誰かに話すと楽になりますよ、という話に多くの生徒が共感し、気持ちが楽になったと言っていた。命の大切さや自分を見つめ直すことができたという生徒もいた。生徒は講演後も積極的に自分の悩み等を質問していた。講演直後に各自感想を作文にまとめた。</p>	講師は、相模原市南子育て支援センター 母子保健班の保健師 事前に「思春期」について感じていること、考えていることのアンケートを行った。
16	相模原市	中1	総合的な学習の時間	性教育 「命のはなし」	<p>思春期の子どもが、身体的、精神的特徴を始めとした性に対する正しい知識を得るところで、生命の大切さに気付くことをねらいとした。</p>	講師：子育て支援センター 保健師
17	相模原市	中複合	総合的な学習の時間	「拉致問題」	<p>事前指導として、昼の放送で生徒が書いた拉致関係の人権作文を紹介した。当日は、指導主事の講演を通して、拉致問題の理解を深めながら世界平和のためにできることを考え、他者への思いやりやいのちの大切さについて育むことをねらいに実施した。講演はスライドや動画、当時のニュース動画も交えて行い、教室に戻ってからは感想や振り返りの記入を行った。その後、感想や振り返りを指導主事と共有した。</p>	講師：相模原市学校教育課 人権・児童生徒指導班指導主事

18	相模原市	中2	総合的な学習の時間	生きるためのこころの健康について	保健師による妊娠・出産の講話を行った。その中で自分自身の命がどのように始まり、どのように誕生するのかを知ることができた。その過程に関わる人々の思いや今ある命がどれほどの奇跡を辿ってきたかを知り、命の大切さを再確認し、自己肯定感を育てるきっかけにした。	緑区子育て支援センター保健師 スライドでの説明やイラストを使い、対話的で主体的な授業で分かりやすかった。
19	相模原市	中3	総合的な学習の時間	性教育「性感染症」	性感染症の知識や予防についての講話、10代の性の悩みやよく誤解している情報などを学んだ。性感染症はどのように広がるのかについて、水を使った実験をおこない、理解を深めていた。 また、性感染症や性に関することで、困ったり悩んだりしたときに相談できる窓口も紹介していた。	講師はNPO法人ピルコン職員 スライドで説明や水の実験などを具体的にわかりやすかった。
20	相模原市	中2	総合的な学習の時間	性教育「将来に繋がる自分の身体」	目標は「命の尊さ、生命が誕生する奇跡を理解し、自分、そして周りの人の命を大切にすることができるようになる」とした。なぜ命を大切にしなければならないのか、という質問に対して、人が生まれるまでのプロセスを知らながら考えた。そのために、2～3億の精子が卵子へたどり着き、受精が完了するまでの大変さを知り、自分という人が生まれる確率がどれだけ低いか実感させた。また、周囲の人も同じように奇跡に近い確率で生まれてきたということに気づき、命を大切にしようとする姿勢を育てた。	養護教諭の協力の下、内容を考えた。 テレビ番組「世界まる見え」を参考動画として一部抜粋、利用。
21	横須賀市	中2	総合的な学習の時間	いのちの大切さについて学ぶ教室	犯罪に遭われた方々やそのご家族の置かれている状況、気持ちを伝える講演内容で、2年生を対象として実施した。この教室を通じて「命の大切さ」について考え、改めて命の大切さを知ることや、犯罪やいじめのおそろしさ、被害者の心情を知ることができた。	神奈川県警察連携NPO法人神奈川被害者支援センタースクールアドバイザー
22	横須賀市	中2	総合的な学習の時間	防災教育「修学旅行事前学習」	岩手県大槌町の海を見下ろす丘に置かれた「風の電話」。震災で会えなくなった家族や友人ともう一度言葉を交わしたいと願う人々がここを訪ね、線のつながっていない受話器を通じて「会話」をする。被災した街は復興が進んでいるが、大切な人を失ったことで前に進めずにいる人はまだ多くいる。口に出せない思いを抱えた人たちにとって「風の電話」は大切な支えになっている。私たちにできることは、力を尽くして精いっぱい生きている人の想いや、大切な人を亡くし心に大きな傷を負っている人の気持ちを考え、震災を忘れないこと。修学旅行の事前学習として、「風の電話」の映像を見ながら、被災地の人の思いに寄り添う時間とした。	NHKスペシャル『風の電話』
23	横須賀市	中1	総合的な学習の時間	防災教育	横須賀市消防局の方々のお借りして、地震や火災の発生場面を体験したり、消火器の使用方法を学んだ。また災害時、落ち着いて行動できるための訓練として意識しながら体験を行った。今回の体験を経て、実際に災害が起きたときにどのようなことに気がつけることが必要か学ぶことができた。災害が起きるか分からないなかで、災害は身近なことと考え、防災に対する知識を蓄える機会となった。	横須賀市消防局

24	横須賀市	中1	総合的な学習の時間	福祉体験	横須賀ボランティアセンターのご協力を得て、手話、視覚障害者の誘導法、点字、車いすの操作法、高齢医者の生活体験などを行った。今回の体験を経て、身体不自由者の生活を知ることができた。また、元気に過ごせることがどれほど素晴らしいことか知ることができた。今後、自分たちがどのように生活していくべきか深く考えられた機会となった。	横須賀ボランティアセンター
25	横須賀市	中1	総合的な学習の時間	防災教育 「地域の方々と防災について学ぶ」	地域の方々のもとにいくつかのグループに分かれて、防災倉庫や広域避難場所の見学に行った。自分の住む地域の防災についての知識を高めることで、どのように自助・共助できるのかということを考えることができた。また、地域の方々と顔見知りになっておくことで、実際に災害が起きた時に様々な利点があることも学ぶことができた。	地域の町内会、自治会の方々
26	横須賀市	中複合	総合的な学習の時間	防災訓練 災害時に備える	地域の方を交えた防災訓練を実施した。始めに各クラスにて地震が発生したと仮定したアナウンスを聞き、その後全員で体育館に避難を行った。体育館で全校集会を行った後、地域ごとに分散して下校を行った。地域の方を先頭に下校を行い、地域の防災倉庫を全員で確認を行った。防災倉庫の中身と地域の防災状況について地域の方から話をいただいた。	講師は地域のボランティアの方
27	横須賀市	中複合	総合的な学習の時間	防災教育 「地域連携防災デーの取り組み」	全学年複合で居住地区に分かれ、災害時の地域についての学習を行った。自治会館に備蓄されている備品の確認、災害時の給水活動の訓練、地域に住む高齢者の自宅への訪問など、災害が起きたときにどのように行動するかということを考え、地域の方と活動することを通じて、「普段からあいさつなどをして顔見知りになっていることが大切だと感じた」「中学生は昼間大人が地域にいないときに力になる存在ということが分かった」などの感想が見られた。	それぞれの地域の皆様
28	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	防災教育 「中学生が避難所でできること」	4時間目から6時間目の3時間構成で実施。4時間目には全体で「中学生が避難所でできる事」をテーマに、東日本大震災の被災地で中学生がどのように活動していたかを聴きながら自分なら何ができるかを考える。5、6時間目は、1年生は中外製薬プログラムで避難所で使用される用具の体験や備蓄倉庫の見学、2年生は地域住民と協力して逃げ地図づくり、3年生は避難所運営ゲームを行って、それぞれが自分ごととして防災について考えた。	講師：AMDA社会開発機構 2学年逃げ地図づくりは、地域住民に協力をいただいた。 1年生は中外製薬に協力いただき、段ボールベッドなどを体験。
29	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	水の事故防止	学区や通学路のすぐそばに海があり、生徒も当たり前のように浜辺や海で遊んでいる中で、危険を知りつつ、恐れるだけではなく、上手な付き合い方について話を聞いた。またその場所にあるいろいろな安全の工夫などを学んだ。	講師 鎌倉ライフガード

30	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	SOSの受け止め方	生徒が命の大切さを実感できる教育に偏ることなく、社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処法を学ぶ。 (命や暮らしの危機に直面したとき、誰にどうやって助けを求めればよいかの具体的かつ実践的な方法を学ぶつらいときや苦しいときには助けを求めてもよいことを学ぶ。)そのために3年生対象に1時間講演会を設けた。 また、子どもが出したSOSについて、周囲の大人が気付く感度をいかに高めまた、どのように受け止めるか研修する。そのため保護者と職員に生徒の講演会の後に、大人向けの講演会を設けた。	講師 客員研究員
31	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	「いのちの教室」	2時間で展開。妊娠や子育ての大変さ、思春期のからだやこころ、ひとり一人が自分の生き方があることなど、講師の話と体験を交えた内容。2時間目は「これから自分や自分の大切な人たちを守るためにできることは何か」について考えた。	鎌倉市市民健康課の保健師、助産師
32	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	いのちの授業 「自分を大切に する」	保健福祉事務所の保健師による「いのち」についての講演を聞いた。事前アンケートを元にストレスとの付き合い方と、心を守るためのヒントについて考えた。心の傷は見えないからこそ、我慢せず早めにSOSを出すことの必要性を学んだ。また、人との距離感を考えることで自分と相手を大切にすることも学んだ。自分の気持ちに目を向け、相談できる人を3人見つけるなど、自分を大切にすることについて学びを深めた。	鎌倉市市民健康課の保健師
33	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	いのちの教室講演会	思春期の子どもたちに、いのちの大切さや自分や相手を大切にすること、一人で悩みを抱え込まずに信頼できる人に相談するという選択肢があることを伝える。また、大人が子どもの変化に気づき、困りごとへの対応やSOSを受け止めるスキルを身につける一助とする。	
34	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	防災教育	本校は災害時の避難場所となっており、避難所になった場合の運営を体験するプログラム。避難してくる方は年齢層、各個人の抱えている事情や、障がいがある方など色々なケースが想定され、避難してもらおう場所(教室)、誘導方法などを生徒たちが判断し、行動する。 障がい者や高齢者、妊婦の方など様々な視点に目を向けて、実際に疑似体験を行いながら避難し、避難時に何が必要かを学ぶ。生徒たちは避難する側、受け入れる側と両方体験し熱心な姿勢で取り組んだ。	鎌倉市役所 鎌倉市社会福祉協議会
35	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	防災教育	中外製薬、鎌倉市役所の協力を仰ぎ、防災グッズを実際に体験して、避難所の生活を体験するプログラム。段ボールベッドや仮設トイレなど、さまざまなストレスにさらされる中で、いかにして協力し、共生して行くべきなのかを考える。 実際に避難場所の疑似体験も行い、災害時の支え合いが命の支え合いとなることを学ぶ。また鎌倉市役所の協力のもと、防災備蓄庫の見学をさせてもらい必要な生活物資について熱心な姿勢で考えていた。	鎌倉市役所 中外製薬 関東学院

36	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	食育	主に朝食の重要性を学んだ。事前アンケートで、市内中学生や本校生徒の朝食を食べる状況を確認し、朝食を食べることは、脳のエネルギー補給だけでなく、体温を上昇させたり、体をつくったり、排便を促す効果もあったりすることなどを学んだ。普段の食事に1品食品を追加するだけで取るべき栄養素が大きく改善されるなど、食事について理解を深めた。	小学校から栄養教諭を招聘。
37	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	平和学習 命の大切さ	中学校3年間、平和学習を通して「平和の大切さ」「命の大切さ」を考える時間を持ってきた。その集大成として、修学旅行で広島平和記念公園を訪れ、学年全員で黙祷をすると共に、全ての人たちが幸せになるために生きていけるように、平和と命の大切さを考え、祈りを捧げた。	現地ガイドによる説明。
38	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	平和学習 命の大切さ	平和学習の集大成としての広島への修学旅行に向け、1年生の時から『平和』について学んできた。1年生の時は、『平和と戦争について』とテーマを決め、調べてまとめた。今年度続けて、広島の歴史や地理について学び、広島の「被爆遺構」について調べた。原爆の威力や被爆のありのままの姿を知ること、平和の大切さ、命の尊さを感じることができた。	
39	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	防災教育	本校は海岸から近い立地のため、防災・減災の意思を高めるために防災教育に力を入れている。また、生徒は大きな災害を体験していないため、教員などの経験を伝えること必要がある。授業構成は1時間目にガイダンスと教員の経験を伝える。2時間目に防災巻プリントを行い、実際に災害時の状況を想定してみる。3時間目に防災巻プリントをクラスに発表し、様々な意見を聞き、修正していく。様々な意見や経験を聞くことでより具体的に考えることができた。また、身近な地域を例に考えたため、生徒一人一人が主体的に学べることができた。	(使用教材) 教員作成資料(3時間 構成：図版・地図・写真等)をもとに授業を行った。
40	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	平和学習	まもなく終戦後80年を迎えることや、世界各地で紛争が続いている状況から、これまで以上に平和への願いと平和構築の努力の大切さを考える機会が必要である。そのため、太平洋戦争への経過や戦時中の人々の証言を紹介するとともに、原爆が投下された広島・長崎の惨禍を作業を通して学び、自らの考えをまとめた。生徒は、空襲の様子に驚き、戦争の恐ろしさや人の心にもたらす影響を感じとっていた。また、戦時中の人々の心を思いやり、原爆の惨禍を身近な地域にあてはめてより実感しようとしたり、戦争の原因を自分なりに探り始めたりするなど、様々な視点から平和への考えを進めていく姿が見られた。自分の命を大切にすることや、語り継いでいかなければならない、と考える生徒も多くみられた。	(使用教材) 教員作成資料(5時間 構成：図版・地図・写真等)をもとに授業を行った。
41	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	オンライン震災(防災)学習	①2011年3月11日の東日本大震災を経験された方の話を聞き、当時の状況を深く知る。 ②防災への正しい知識を持ち、今、私たちができることを考える。 という目的で、zoomによるオンライン学習会を全学年一斉に行った。当時、中学生だった語り部の方から「津波てんでんこ」の話をお聞きし、「まず自分の命を守ることが大切だ」と学んだ。	公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

42	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	平和学習・戦争に関わる身近な施設調査	<p>平和教育の取り組みとして、学校近くにある戦争関連施設（横須賀水道道の道標・県立スポーツセンター内のグリーンハウス）を見学した。そのときに学習した内容をふまえ、身近な地域や旅行先等で見つけた戦争に関わる施設について調査し夏休みの課題レポートしてまとめた。</p> <p>文化発表会の展示作品として教室前廊下等に掲示し、作品の交流をすることで、他の生徒の平和に対する思いを知ることができた。また、戦争について考えることで、平和の大切さについて理解を深めた。</p>	
43	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	キャリア教育・保育園交流	<p>保育士の先生の話聞くことで職業観を持ち将来の進路選択に役立てるとともに、保育園に通う幼児と交流することで人を思いやる心の育成を目的に、中学校に幼児を招待して交流する機会を設けた。</p> <p>先生の講話を聞くことで、実際に保育士の仕事に興味を持った生徒も複数いた。また、幼児と一緒に体操をしたりゲームをするなかから、自分たちより小さい子、配慮の必要な子に対して、思いやりを持った行動をとるなどやさしい心を育むことができた。</p>	善行学びの保育園の保育士の先生方、幼児の皆さん。
44	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	いのちを大切に する「平和宣言」	<p>修学旅行で広島を踏み、語り部さんの話を聞き、平和資料館を見学し、いのちの大切さについて学んできた3年間の集大成として、それぞれが考える「平和」について語り、その「平和」のために自分がどう関わっていけるのか全校生徒に向けて発信をした。全校生徒がいのちの大切さを感じ、「平和」のために自分ができることを考える機会となった。</p>	
45	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	防災教育	<p>防災教育の一環として避難所運営ゲームを行った。自分たちの学校が避難所となったときに自分たちがその地域に住む者としてどう動くのか、命をつないでいくかをゲームを通して考えた。授業時にはスピード感を大切に、何が起こるか分からない中で情報の処理や判断力を高め、よりスムーズに運営ができるように取り組んだ。</p>	(使用教材) 避難所運営ゲーム
46	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	地域の防災防犯学習	<p>地域の防災防犯学習を行った。6つのグループに分かれ、避難所体験、起震車体験、簡易担架作り、消火器体験、応急手当等を行った。多くの方々と関わりながら、地域での安全安心を実際に体験することで、有事の際に自分ができることについて考える事ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センター ・市災害対策課 ・市救命救急課 ・市予防課 ・地区自治会連合会
47	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	平和学習	<p>第1学年で平和学習を行い、第3学年の修学旅行（広島、京都）につなげる。</p> <p>第1学年では、平和学習の導入、土台として「平和」とは何か、平和の対義語「非平和」とは何かを、講演を聴いて学ぶだけではなく、ワークショップを通して生徒自身が考えていく機会とした。</p> <p>さらに、戦争と平和について理解するために、学年全体で明治大学平和教育登戸研究所と川崎市平和館を訪れ、いのちの大切さを考える機会を設けた。</p>	

48	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	平和学習 「障がい者が始めた障がい者支援」	2, 3年生合同で、アフリカ・ルワンダで起きたこと、現在のルワンダ、義足を作り、無償で提供する活動等について講演をいただいた。 子どもたちが「ひと・もの・こと」に豊かに関わり、広く世界や歴史に目を向け、そこから命の大切さ、自他を大切にたくましく生きることについて学ぶ機会とした。	講師は、NGOプロジェクトより2名。
49	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	防災学習	地震が発生したとき、耐震化された学校では、必ずしも「校庭避難」に限定することなく、「教室待機」で安全を確保する訓練を実施する必要性があることを学んだ。 全体で講演をいただいた後、グループごとに学校での危険箇所を把握し、どのように身の安全を守ればよいかについて意見を出し合い、各クラスで発表を行った。	講師は、慶應義塾大学環境情報学部 准教授。
50	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	三校交流活動	○地域グリーン活動を行った。 ・近隣の川沿いに、ヒマワリを植えた ・除草・耕し作業（中学校、高校） ・苗植え（小学校、高校） ・水やり（高校） ・枯れ草の廃棄、整地作業（高校）	大清水小学校 県立藤沢清流高等学校 大清水 心のかけはし会
51	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	防災教育	○自然災害のあとの「共助」について学び、安否札を作成した。 災害時に自分たちにできることを考えてた。人の命を救うために自分たちに何ができるか考え出した生徒もいた。	藤沢公民館に配架を依頼した。
52	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	インクルーシブ教育	本校の「共に学び、共に育つ」という教育目標に基づき、誰一人排除することなく、多様にある生き方や、考え方を受け入れ、大切にするための授業であった。実際の事例の中から、世の中には多様な考え方があふれていることを理解し、そのような人たちが、排除されないための手立てを考え、共有をした。その中で、自分とは違うことを考えた生徒の意見を、受け入れる姿が見られた。教室に戻り、まとめの時間では、自分達が学校の中で、どんな取り組みができるのか、どのような態度で人と接するべきなのか真剣に考え、ワークシートに記入していた。	講師は、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課の指導主事。 スライドやICTを効果的に使用することで、具体的なイメージをもてた。
53	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	被爆体験伝承講和	被爆体験伝承者による、被爆体験についての講話を聞いた。被爆直前の日常生活が一変していく様子を語りとスライドで目の当たりにし、生徒にとって命の尊さ、平和の大切さを再認識するきっかけとなった。	講師は、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館より派遣
54	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	防災教育 災害の時にどうすればよいか	消防署に依頼し、クラスごとに若手消防士による授業を行った。大きな地震が来たらどうすればよいか、身を守る方法や、その後の避難生活で何が必要かを考えた。実体験を含めた話に生徒もとても関心を持って聞いていた。避難生活の中では、中学生が率先して手伝ってくれてとても助かったこと、「中学生のみなさんにも期待しています」という話を受けて、防災に対し主体的捉える様子が見られた。	消防士3名

55	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	防災教育 地域の様子を知ろう	自分たちの暮らす地域にどのような防災施設や防災備蓄があるかを調べるため、5～6人のグループで地域の様子を見学に出かけた。自治会の人から長時間にわたって備蓄倉庫内のことについて説明を受けたり、その方が親から聞いた関東大震災の時のことについて聞いたりした。また、高齢者福祉施設では、津波から逃げる上層階に案内していただき、飲料水の備蓄水槽を確認した。	保護者ボランティアが各班1, 2名で計20名
56	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	防災教育	身近な災害・緊急事態の実態を聞き、消防隊の仕事や現状を理解しながら、災害についての学びを深めた。グループになって避難時に必要なもの・役に立つものを考え、意見を述べ合い、講師の方の説明も交えながら身近なところに身を守る方法があることを知った。また、学校は広域避難場所に指定されていて、自分の命を守ること、地域の人と協力すること、助け合うことの大切さ・命の大切さを学んだ。	講師：茅ヶ崎市消防署員
57	湘南三浦	全学年	総合的な学習の時間	自他の命を守る	防災学習として、茅ヶ崎市防災対策課の職員及び自治会長、防災リーダーの方々の協力をいただき授業を行った。防災対策課職員からは被害時の行動についての講話、自治会長、防災リーダーの方々からは、各自治会に住む生徒と顔合わせをし、地域の避難場所に移動して防災倉庫の中にある物の使い方を指導を受けた。生徒たちの多くは、避難場所にて地域のために何ができるか、積極的に考えていた。	講師：茅ヶ崎市防災対策課職員、自治会長、防災リーダー
58	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	「海や川での危険回避」	夏休みを前に、「いのちを守る」ためにどうしたらよいか、身近な川や海での危険回避方法を学んだ。茅ヶ崎市は海が近く、海水浴に行く家庭が多いので、離岸流やそこからの脱出方法について図を見ながら学んだ。川では流れが作る川底の深みや、流れの速い場所について学び、いのちを守る行動について考えた。	
59	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	平和学習 「広島・京都修学旅行」	修学旅行の2泊3日の行程のうち、1日目の広島で、語り部の方々から原爆投下により町とそこに暮らす人々が受けた戦災について話を聞くとともに、そのゆかりの建造物や遺品などに触れることを通して、戦争とそれを引き起こした人間の恐ろしさ、命を大切に思う気持ちの必要性と尊さ等について学んだ。	
60	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	救命講習	消防指導課職員から、負傷者発見時の対応や、AEDの使い方等について学んだ。人工呼吸を行わないことや、心臓マッサージの際に負傷者の口元にタオルをかけることなど、コロナを含む感染症の防止に関わる内容もあった。自分の家族や、街中でそういった場面に遭遇した時に活かしていきたいという感想も多くみられ、非常に有意義な時間となった。	講師：茅ヶ崎市消防指導課3名
61	湘南三浦	中3	総合的な学習の時間	戦争・平和・いのち	講師の伯父が鹿児島島の飛行場から発った特攻隊として亡くなられており（享年17）、伯父を含む少年兵5人の写真が表紙に掲載された書籍の内容、特攻隊として若く命を散らした方々のお話を伺った。 講師からの「戦争をしないということを、私たちは今一度決意しなければならない。今、自分たちにできることは何か。」の言葉を受け、命の尊さ、今を大切に生きることを考えた。	元市内小学校養護教諭 戦争の記憶と命の尊さを後世に伝える語り部活動をしている。 紹介した書籍 『ユキは十七歳 特攻で死んだ』（毛利恒之著／ポプラ文庫）

62	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	性教育講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生と命の尊さとの大切さを知る。 ・性についての正しい知識を得る。 ・生徒の発達段階に応じた性に対する考え方を習得する。 	昭和大学 助教授
63	湘南三浦	中1	総合的な学習の時間	世界の同級生	SDGs 1番の「貧困をなくそう」をねらいのベースに、児童労働者の例を通して、自分と同じ年齢の人々が厳しい生活をしている現状に目を向けさせる。貧困がなくなる負の連鎖に迫り、犯罪をしなければ命を保つことができない環境や、環境が変われば犯罪をしなくていいことにグループでの話し合い活動を通し、気づかせていくことを狙ったもの。	・学年全体で取り組む。教員作成プレゼン資料。児童労働者の実情に迫るものを提示。パキスタンの児童労働の禁止に至った例も示す。A4 1枚の考え書き込み、振り返りシートを用意。
64	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	防災学習「いきのびるために」	身近な自然災害、その災害からおこる二次災害と災害後にどんな物があれば生きのびられるかについて考えた。家族と自分のいのちを守りたいという思いをもちながら自分ごととして考え、意見を出し合うことで前向きに災害に備えようとする気持ちをもつことができた。	NHK for School
65	湘南三浦	中2	総合的な学習の時間	戦争のない平和な世の中をつくるために、私たちがすべきこととは何か考える	唯一の被爆国である日本は、広島・長崎の被爆体験を平和の礎として後世の日本人に伝えていく必要がある。しかし、被害者意識だけで成り立つ平和教育は未来志向の平和教育にはなりえない。そこで、日露戦争・太平洋戦争・パレスチナ問題をとおして「互いが互いの立場を慮って平和への道を模索する心と態度の育成」にむけて、動画を活用し、話し合い活動を行った。	NHK「カラーで見る太平洋戦争」
66	県央	中1	総合的な学習の時間	防災教育	生徒の防災への意識を高めるため、毎年実施している。班ごとに分かれ、学区の中を歩きながら地域に設置されている防災設備を確認した。また、生徒たちが厚木市危機管理課の方を講師に招き、防災ベンチを作成した。	講師：厚木市危機管理課
67	県央	中複合	総合的な学習の時間	「生かされているということ」～3.11を自分ごとにする～子供たちが生涯を通して健康で安全な生活を送ることができる力を身に付ける。	<p>○神奈川県立横浜瀬谷高等学校の先生の講演 「防災」をテーマとし、実際に震災を体験された方の話を聴き、防災意識を高め、今自分たちにできることは何かを考え、今後の防災教育に繋げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、宮城県石巻市の紹介 2、東日本大震災の当日、何をしていたか 3、被害の大きさ 4、復興までの道のり 5、経験を経て学んだこと（生かされているということ） 6、被災していた時に書いた日記の朗読 <p>実際に震災を体験された方の話を聴き、地震の怖さ、生きること、命を守るために生きること、命を守ることの大切さを真剣に考える貴重な時間であった。</p>	
68	県央	中複合	総合的な学習の時間	人権を学ぶ①	年2回実施する人権学習の1回目として、各学年で授業を行う。1学年は「権利の熱気球」、2学年は「めぐみ」、3学年は「いのちのバトン」という題材で行っている。それぞれが大切にしている概念が違うことや、安心安全な生活を送る権利があること、誰もがそれぞれ先祖より引き継いだ大切な命であることを学び、自分や周りの仲間を大切にすることを育んでいる。	2学年「めぐみ」は、文科省の提示する資料を参考。 3学年「いのちのバトン」は、相田みつおさんの詩を引用。

69	県央	中複合	総合的な学習の時間	人権を学ぶ②	年2回実施する人権学習の2回目として、各学年で授業を行う。1学年は「障がい者とともに生きる」、2学年は「ジェスチャーゲーム」、3学年は「一冊のノート」という題材で行っている。それぞれ視覚障がい者、ろうあ者、認知症を発症している方やその家族の生活、身体操作等の困難と工夫、周りの方々の助けについて考える場としている。事前学習を終えたあと、実際に点字体験やろうあ者の講演会、地域包括支援センターの方の講習会を受け、学びを深めて実生活に生かすことを狙いとしている。	全学年本学習である体験学習や講演会、講習会は、厚木市の福祉教育推進事業より申込、実施をしている。
70	県央	中1	総合的な学習の時間	福祉体験学習	福祉体験学習で講師をお招きし、手話講座に参加した。講座では、手話の重要性についてのお話をいただき、簡単なあいさつなど手話によるコミュニケーションにも挑戦した。障がいの有無にかかわらず、誰もが住みやすい共生社会を考える機会となった。	厚木市手話サークル「あゆの会」
71	県央	中1	総合的な学習の時間	車椅子バスケットボール	講師として実際に車椅子バスケットに協議として取り組まれている選手をお呼びし、講演会をおこなった。講師の自己紹介では、車椅子バスケットを始めた理由など具体的に話を聞くことができ、生徒も自分事として話を聞くことができた。車椅子バスケットを通じた問題提起をしていただくことで、考えながら競技を見ることができた。デモンストレーションを見てからの生徒体験をさせていただいた。質疑応答の際には、これから生きる上で、たとえ自分にできないことがあっても立ち止まらず、努力して補うことが大切だということを学んだ。	講師 車椅子バスケット選手
72	県央	中2	総合的な学習の時間	防災教育「助けられる人」から「助ける人」へ	大きな災害の後、避難所生活が始まった際、地域の中で生活している中学生の存在は計り知れない。中学生として「『助けられる人』から『助ける人』へ」をめざして、心肺蘇生法や自動体外式除細動器（AED）の体験を通し、救急救命活動に対する意識を高め、いざという時に行動できる心構えを習得した。AEDを活用した心肺蘇生法について、消防署からDVDやパワーポイントを通して、緊急時を想定した行動の大切さを習得した。AEDやダミー人形を消防署から借用させていただき、実技演習を体験した。その体験からいのちの大切さだけでなく、緊急時自分のできることから行動したいと思える生徒が多かった。	講師は、保健体育科の教員。 消防署から、DVD、ダミー人形借用。 (参考資料)海老名市防災学習テキスト『災害から命を守る』
73	県央	中1	総合的な学習の時間	「福祉」誰もが幸せになる社会	自分たちの住んでいる街には、さまざまな立場の人がいることを理解し、ともに歩いていく方法を探す。始めに、命を守るために危険なところがないか学区を探索した。その後、ボランティア団体より、障がい者を理解するための疑似体験や災害時の自助共助を学んだ。学区探索と福祉体験をもとに、誰もが幸せになれる社会をつくる方法を模索した。命の価値はともに同じであると理解しているが、障がいの有無によって生活する上での困り感や求めていることが違っていると改めて理解する子もいた。また、災害時には始めは自分の命を守るための行動が大切であり、その後、周りとの協力することで多くの人の命が救われることを理解した。	・学区探索 ・福祉体験 いくつかの団体からの講義、体験
74	県央	中2	総合的な学習の時間	心肺蘇生法実技講習会	心肺蘇生法の必要性をDVDを視聴して学んだ後に、座間市消防本部の方を講師にダミー人形を使って、AEDの正しい使い方を2年生全体で実践した。この講習は、いざという時のために自分でできることで、協力できるようにする講習会である。	座間市消防本部

75	県央	中複合	総合的な学習の時間	いのちの大切さを学ぶ～防災の視点から～	体育館で全校が参加し、楽しい場面、震災を映す悲しい場面、からだを動かす場面、どうするか考える場面などがあり、様々な視点で「いのちの大切さ」を考えることができた。	一般社団法人いのちを守る a t プロジェクト JAPAN
76	県央	中2	総合的な学習の時間	心肺蘇生実技講習会	救命方法の基本を理解し、命について改めてその大切さを考える。地域の消防署より救急救命士、消防士を講師として招き、実技を交えて心肺蘇生法を学んだ。	座間市消防署北分署より救急救命士、消防士、消防隊、救急隊、市役所管理課
77	県央	中複合	総合的な学習の時間	命を守ることを考える「学ぼう防災」	自然災害にはどんなものがあるのか。自分たちの住んでいる地域ではどんな被害が考えられるか。また、日頃からどんな備えをしているか、自分の命を守るについて学んだ。→引き渡し訓練につなげた	NHK for school「学ぼうBOUSAI」被災地から学ぶ 1～3年の全学年・動画を視聴
78	中	中2	総合的な学習の時間	福祉体験	学年の生徒が、車椅子操作法体験、高齢者疑似体験、視覚障がい者の理解と点字体験、視覚障がい者の理解と誘導法体験、聴覚障がい者の理解と要約筆記体験、災害学習の6つのグループに分かれて学習した。障がい者や高齢者体験では、それぞれの生活の課題を知り、人権に根差した共生を考えることができた。また、災害学習では、ボランティアセンターの役割や、家庭内DIGについての話を聞き、災害が発生した後どのように生活するかを学んだ。	平塚市社会福祉協議会・平塚点訳赤十字奉仕団・要約筆記サークル平塚・平塚防災ボランティアネットワーク
79	中	中2	総合的な学習の時間	防災学習～避難所で生かせる様々な力を身に付けよう～	①災害時に自分たちの命を助けるかもしれない知識・技能を理解する。 ②自然災害や減災・防災に対する正しい知識をもとに、自ら考え、判断し、行動する力を身に付ける。 ③いのちの大切さを学び、将来必要な「優しさ」や「思いやり」、「コミュニケーション力」や「想像力」を意欲的に育む。 の3点を目的とし、段ボールベッドや簡易テント・トイレの組立を行い、実際の避難所での生活を仲間と協力しながら体験した。	平塚市災害対策課より講師3名
80	中	中1	総合的な学習の時間	防災教育	自然災害についての理解を深め、災害が身近なものとして認識されるよう促し、災害時に自己や他者を守るための具体的な防災対策や行動を考えさせ、仲間との協力を通じて主体性と協調性を高めることを目指した。 生徒が実際に体験を通して防災を身近に感じるための手段として、ハザードマップ作成、避難所ロールプレイ、テント設営、火起こし体験等を学校グラウンドで行った。平塚市災害対策課や女性防災クラブ平塚パワーズに協力していただいた。 このことを通し、冷静な判断力や防災対策のスキルを身につけ、災害時の自分がとるべき行動について考えを深められた。また、仲間との協力やコミュニケーションも重要だと感じていた。	・平塚防災対策課 ・女性防災クラブ平塚パワーズ ・平塚市ハザードマップ ・防災すごろく
81	中	中1	総合的な学習の時間	反戦平和学習	講師の方が12歳のとき、平塚市の南側の「須賀」で空襲を体験された。当時の平塚大空襲へ至るまでの経緯や空襲での人的、物的被害について、講師の方が実際に体験したことを聞き、戦争の恐ろしさを知るとともに、平和の尊さや大切さを改めて考えた。	・講師…「平塚の空襲と戦災を記録する会」 ・平塚市立博物館から展示用の平塚空襲のパネルをお借りして空き教室（学習室）に展示した。

82	中	中3	総合的な学習の時間	多様性を認め合い共に生きる社会へ	生まれた性は男性で性自認は女性の方、生まれた性は女性で性自認は男性という2人の方をゲストティーチャーに招き、トランスジェンダーについての理解や多様性を認め共に生きる社会を実現するためにどのような課題があるのかなどを考えた。	講師…トランスジェンダーの方2名(生まれた性は男性で性自認は女性の方1名、生まれた性は女性で性自認は男性の方1名)
83	中	中3	総合的な学習の時間	人権感覚を磨こう	国連NGO横浜国際人権センター会長の杉藤さんに「人権感覚を磨こう」という内容で講演いただきました。 中学生が難しく考えがちな「人権」という考え方を、誰にでも理解できるようお話いただき、小さなことからでも実行する大切さを伝えていただきました。自身に起きた出来事や、国境なき医師団について、写真などの資料を用いてわかりやすく説明をしてくださいました。 講演後の感想文を見ると、杉藤さんの言葉に勇気と希望を与えられた中学生が多く見受けられました。	講師は国連NGO横浜国際人権センター本部スライドを映し出すことによって視覚的にも内容が理解できた。
84	中	中2	総合的な学習の時間	愛と優しさで人は育つ	オペレッタ作家・アイリッシュハーブ奏者を講師に「愛と優しさで人は育つ」というテーマで講演をしていただきました。 「どんな子どもも皆、愛し愛されるために生まれてくる」ということを伝えてくださいました。 この講演をきっかけに、自分の命、他人の命の大切さ、人格の尊厳に気づき、思いやりの心を持っていきたいと感じる生徒が、講演後のアンケートから多く見受けられました。	オペレッタ作家・アイリッシュハーブ奏者 実際のアイリッシュハーブ演奏を交えた講話で、集中して話を聞くことができた。
85	中	中1	総合的な学習の時間	生命の安全教育	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけの大切なところを知る 自分と他の人を守るためのルール 自分と他の人との距離感が守られないときの対応方法 SNSをつかうときに気をつけること を目的として授業を行った。動画を止めながら視聴し途中アンケートを用いて生徒の意見を講話の中に取り入れるようにした。また、本校職員が現在妊娠をしている点から、どうして命が誕生したかについても触れる話をした。	講師：1学年職員 学年：1年 体育館にて学年集会 教材：文部科学省「生命の安全教育」より小学(高)学年向け
86	中	中1	総合的な学習の時間	他者理解	対人関係において異質を排除してしまうところがある。その中で心無い言葉で傷つき、命を落としてしまうこともある。「知らなかったから優しくできなかった」を無くすためにヘルプマークをはじめとする配慮を求めるマークを知るところから始めて授業を進めた。そこから「トゥレット症」に悩む人の思いを知り、自分にできることを考えていった。「配慮を求めるマークをつけていても、どんなことに困ったりするのかわからないから、最初からバカにしたり変な目で見たりするのではなくて、相手のことを理解することが大切だと思った」「自分と違うと思っても差別せずに、相手のことを理解していくことが大切だと気づいた」等の意見がでた。	参考資料 ABEMA 【チック症・トゥレット症】「わざとじゃないのに」

87	中	中複合	総合的な学習の時間	いのちの授業	「折れない心を育てる」というテーマで講演をしていただいた。「苦しみ」があっても、支えとなる関係・選ぶことのできる自由・将来の夢があれば穏やかな気持ちになれば、苦しんでいることが自分にとって意味があることに気が付けることを、学ぶことができた。また、まわりの生徒との共有を通して、自分を大切にすることをについて深く考える機会となった。	講師 OKプロジェクト エンドオブライフケア 協会 複合学年 中1～中3 全校生徒
88	中	中1	総合的な学習の時間	「自分を大切に して生きるため に」 ～君は愛される ために生まれた ～	医師による「自分を大切に生きていくために」という講演会を視聴した。その中で、生徒たちは性感染症に関する正しい知識や、中学生に必要な性に関する知識を学ぶことができた。講演後には「命の大切さをあらためて実感した」「自分を大切に生きていこうと思えた」などという感想が見られた。また、講演を視聴した保護者からは「性に関しては家庭でなかなか話す機会がないため、学校でこのような講演会があるのはとても良かった」との感想が寄せられた。	龍ヶ崎済生会病院 産婦人科医師